

【⑨タンザニア野球ボランティア（JICA 大学連携事業）】体験報告書（1）

研修時の 本学の所属・学年・性別	中等教育教員養成課程 技術専攻 2年 男性
研修期間	2019年2月21日～2019年3月20日
研修先の国、研修先・訪問先	国：タンザニア 研修先・訪問先：JICAタンザニア事務局、タンザニア野球連盟事務局、地域のプライマリースクール・セカンダリースクール
研修参加目的・動機など	私が、このJICAの海外派遣を選んだ理由は、自分が大学生活で必ず携わりたいと考えていた海外ボランティアに、これまで続けてきた野球を生かしながら活動ができるといったことや、渡航やワクチン接種といった費用面・現地での安全面の支援などが充実していることが大きな理由です。目的としては、自分自身の経験の幅を広め、視野を広げることでした。
研修参加を考え始めた時期	第一次派遣の募集が始まった大学1年次（2017年）の冬頃から。
求められた語学力 及び具体的な準備内容	（求められた語学力） 英検三級以上程度（TOEIC・CASEC等でもよい） 派遣形態により同じJICAでも求められるレベルは大きく異なる （準備内容） パスポート等の書類、予防接種、オンライン研修、東京合同研修、言語講習、現地スタッフとの事前打ち合わせ
情報収集方法	タンザニアからの留学生の方と交流、現地スタッフとのオンライン情報交換、インターネット等
居住環境	ホテル（JICA提携ホテル）
研修先に持参した方がよいもの	常備薬、日本ならではのもの（プレゼント等）、簡単な調味料・調理道具（包丁等）
物価（食費、住居費等 日本の物価と比較して）	ローカルな飲食店やスーパーは、日本と比べると半分以下と安い。※ローカルなところから出ると、日本と変わらないものもある。
研修の必要総額 （渡航費、生活費を含む）	総額 数万円 ※基本的にJICAの場合、国に費用を負担してもらうことができ、日当も出るため、現地の方々と変わらない生活をするのであれば、経費はかからない。
治安状況	決して日本と比べると安全ではないが、裏路地に入ったり、夜中にひとりだけで歩いたりしないなどの安全対策を徹底しておけば、基本的には安全。しかし、日本人はお金持ちだと見られるため、トラブルなどに巻き込まれやすいのは事実なので注意は必要。

<p>その他注意すべき事項</p>	<p>現地の文化をしっかりと学んでおくことが必要。例えば、タンザニアでは同姓愛などに対して批判的な見方をされるため、同姓同士の気軽なコミュニケーションでもトラブルに発展することもある。その他にも街中での食べ歩きは基本しないなど様々な文化の違いについて事前に確認しておく及安全。</p>
<p>留学・短期研修等体験レポート（自由記述）</p>	
<p>私は、大学2年次に、JICA青年海外協力隊の短期隊員として、アフリカのタンザニアという国に行かせていただきました。この派遣は、大学とJICAの3年間の協定に基づくもので、私はその第二次派遣のメンバーとして行かせていただきました。現地での活動内容は、タンザニア国内のプライマリースクールやセカンダリースクールをまわりながら、体育の授業を通して野球を教えるというものでした。その他にも、ナショナルチームの指導、体験として地域の村の方々との交流なども行いました。</p> <p>私自身、初めての海外だったため、この派遣に参加するにあたって、感染症や治安の問題などの不安がありました。また家族も同様で、初めは参加に反対でした。しかし、自分が続けてきた野球を通して、興味があった海外ボランティアに参加できる素晴らしい機会であり、自分自身の成長につながる経験ができるのではないかと考え、家族を説得して参加を決断しました。</p> <p>今思い返してみると、あの時思い切って参加を決断して本当によかったなと思います。その理由としては、2つあります。</p> <p>まず1つ目は、挑戦力と行動力が身に付いたからです。JICA派遣で、不安なことに思い切って行動、挑戦することで、貴重な経験をすることができました。不安でも行動することで、新しいことを知ることができたという成功体験は、その後の自分自身の新たなことに対する挑戦への力強い後押しになりました。例えば、資格試験、海外留学、国内のボランティアなどへの挑戦です。JICA派遣に参加するまでは、やってみたいという気持ちはあったものの、何事にもなかなか踏み出せずにいました。しかし、JICA派遣の経験を通して、挑戦すること、行動することの大切さに気づくことができました。このことは、実際に教員採用試験や教育実習においても、積極的にわからないことは聞く、思ったことがあれば取り組んでみる、生徒と積極的にコミュニケーションを取るなど、大いに活かすことができました。</p> <p>次に2つ目は、ものの見方・考え方の幅が広がったからです。言い換えると、自分の視野が広がったからです。初めての海外ということもあり、派遣されてからの1か月だけではなく、事前準備が始まってからの数か月は、新しいことの発見や経験ばかりでした。タンザニアの文化に触れ、日本とは真逆の考え方を知り、自分の中で日本だけだった世界がどんどん広がっていきました。また広がるだけでなく、日本という国や自分の生活というものを、海外の視点から客観的に見ることができるようになり、自分自身の生活を見直すきっかけにもなりました。そのような経験で、もっと様々な視点からものごとを見てみたい、考えてみたいと探求心を持つようになりました。これも、教員養成大学に通う学生として、その後の生活に大</p>	

きく活かすことができました。

教員になる上で活かすことができたということについては、一番は自分の実体験をもとに、子どもたちに挑戦することや様々な視点からものごとを捉えて考え、取り組むことなどを話すことができるということだと思います。実体験をもって、大人が子どもたちに目をキラキラ輝かせながら話すことができるということは、子どもたちが興味を持ってくれたり、新たなことに挑戦するきっかけになることはもちろん、大人自身も得るものはあると思います。そして、教員という仕事は、子どもたちの成長に直接携わることができる貴重な職業だと思います。だからこそ私は、このJICA青年海外協力隊の派遣に参加できたことは、本当によかったなと感じています。そしてこれからも、今回のように、新しいことに挑戦していこうと思います。